

発行/山田ひとき後援会
 広報部
 平成27年1月18日発行
 〒636-0916
 奈良県生駒郡平群町若井407-2
 TEL0745-45-4845 FAX0745-45-4727
 メールアドレス hitoki@m4.kcn.ne.jp

山田ひとき

平群町議会議員

後援会会報



将来を展望した行政運営を

新年あけましておめでとうござ
 います。
 岩崎町長が「財政再建」「町政
 一新」をかかげて誕生し8年が経
 過しました。
**岩崎町政8年で
 借入金2億円増加**
 平成26年12月議会で岩崎町長は、
 これまでの8年間の黒字転換に
 ついて、『駅周事業等の財政負担
 も多かったが、私が黒字にした』
 との発言をされました。しかし、
 本当にそう言える独自施策を実施
 されてきたのでしょうか？ 後で
 「町民の協力や交付税の増加もあ
 り」と補足訂正されましたが、
 この間、実施された施策は、福
 祉施策の後退による歳出減、過去
 からの職員給与カット継続による
 歳出減、固定資産税の増税による
 歳入増、公有地売却による歳入増
 が主な施策。それ以外、とくに財
 政に大きく影響のあった施策はな
 かったと言えます。

平群小学校の大規模改修工事の時に
 建てられていた仮設校舎



一方、借入金（地方債・土地開
 発公社）については、前中筋町
 長時代の8年間で約42億円の返金
 （償還）による残高減に対し、岩
 崎町長の8年間で、逆に約2億
 円の残高増という結果になってい
 ます。これは将来負担が軽減され
 るどころか、大きくなっている
 という事になり、今後投資的施策が
 やりづらく、益々硬直した財政状
 況と言える結果になっています。

ムダを省く？

入札制度改革による、財政改革
 どころか町内業者の衰退に伴う不
 活性化・町長の自由裁量権限行使
 による他の自治体ではありえない
 浄化槽清掃業許可業者の追加・町
 単独費2千万円以上費やしたホタ
 ルの里公園整備事業他、少数意見
 の優遇等町内の不活性化を伴う施
 策も行われました。

行き当たりばったり にしか見えない

それ以外では、財政的ムダを省
 くといっておきながら、歳出減を
 図る為に深く検討した経緯の見え
 ない事が議会の私の一般質問で明
 白になった現平群小学校の改修工
 事。2年間18ヶ月2夏休みを費や
 す計画の内、1夏休みを仮設ハウ
 スの工事だけにあて、結果的に実
 質11ヶ月で完成した現平群小学校
 の改修工事における、仮設ハウス
 費、約8千万円（追加工事含）。

リスクを伝えていない 町政住民説明会

又、開かれた町政とし、町政住
 民説明会は実施されてきましたが
 その内容としても、本当にガラス
 張りの報告になっていたのかどう
 かも疑問になってきました。

何故なら、このままでいくと、

町財政が赤字になる事が確定であ
 り、それほど赤字再建団体に
 なるリスクが大きい事がわかって
 いながら、その事を住民にわかり
 やすく伝える事なく駅前への文化

センター建設を住民の願望と位置
 づけ、確かな裏付けもなく「やれ
 ば出来る」と将来負担も深く検討
 する事なく進めていこうとされて
 いる事も12月議会の中で見えてき
 ました。
 固定資産税の超過税率を課した
 まま、平成30年には7億7千万円
 以上の赤字財政になる文化センター
 建設が本当に今、駅前に必要なの
 でしょうか？

2面掲載の一般質問では、西小
 学校跡地利用と文化センター構想
 が全く別の方向で考えられている
 ことも明らかになりました。行き
 当たりばったりのようにしか見え
 ません。

岩崎町長は、アクションプラン
 2校案による南小学校の廃校案も
 継続した状態のままや南保育所の
 跡地検討もいまままでの幼保園の
 新設、駅周事業との関連も考慮し
 ないままでの中央保育所の跡地売
 却、今後の中央公民館の跡地検討
 や財政担保もないままでの文化セ
 ンター構想といったように、問題
 を先送りしたままで突き進んでい
 こうとされています。

今こそじっくりと、財政見通し
 と町有施設全体の利用構想を持っ
 て、しっかりした将来展望を構築
 し、進めていくべき行政運営が求
 められるのだと思います。



山田ひときの略歴
 文化団体“やまと四季探訪”主宰

- ◇昭和36年4月16日平群町に生まれる
 - ◇平群西小卒業 ◇平群中学校卒業
 - ◇県立高田高等学校卒業
 - ◇摂南大学 建築学科卒業
 - ◇一級建築士
 - ◇スキューバダイビング資格取得
 - 議会運営委員会 委員長
 - 総務建設委員会 委員
 - 議会改革特別委員会 委員
 - 下水道事業特別委員会 委員
 - 議会だより編集委員会 委員長
 - 佐藤正久参院議員(ヒゲの隊長)
- 奈良後援会 平群支部長

一般質問 (要旨)

平成26年12月議会

旧平群西小学校の 利活用について

本年3月にも同様の質問をし、町は、地域公聴会を開催し、『跡地利用はまだまだ入口の議論であるが地域の方に関心をもっていただき今後計画を策定していくにあたり、一定の成果であった』。そのほか、「記念館」「歴史資料館」「6次産業化の推進拠点」「福祉団体への施設貸与」と4つの利活用案等を示されましたが、土地所有権等の問題が解決していない現状、民間への売却や一括した賃貸借については現実的でないとし、公の利用の複合施設としての検討のもと、26年度予算にて、平群西小学校跡地利活用基本計画検討業務実施の委託費用7百万円を確保されました。

①現在の検討方向、進捗状況はどうなっているのか？

②土地等の権利の問題で『町有地以外に7ヶ大字の共有地と民間6名の共有地等が含まれており整理が困難である』とのことでしたが、土地の権利関係の整理、問題解決へ向けた動きはどのように進んでいるのか？

③最近住民説明会などでよく耳にする文化センター構想も加味された公的施設全体を考えた構想になっているのか？

④3月議会での本庁舎としての利用についての私の提案に対し『貴重な意見として一つの選択肢として検討する事項に加えていきたい』との答弁を頂いたが、現在、本庁舎も視野に入れた検討になっているのか？

答弁

①用途地域・建築構造・建築確認・設備の状況を踏まえて関連法制度の整理検討を行い、跡地利用として利用可能な用途の選定が完了し、構造を大きく変えることのないような、利用区分について、平面的な検討を行っている。

②個人名義の土地については代表者の方と買取を前提に交渉を進めている。大字名義の土地については、手法も含め課題解決に向け、法務局と協議している。

③文化センター構想は住民ニーズの高い施設を、駅周辺整備事業とマッチングさせる事業として検討している。

④検討を行ったが、現在市街化区域内にある庁舎を市街化調整区域に機能を移転させ



現在の西小学校跡地

る都市計画上の論理的な理由に欠ける事から、役場庁舎への転用は、ハードルの高いものと考える。

投稿 終の棲家 11

平群に住み続けるために

謹賀新年 本年が皆様にとって良い年になりますように祈念致します。

いよいよ四年に一度の統一地方選の年を迎えました。思い返せば前回の町長選では、中筋候補が28票という僅差で惜しくも敗れ、悔しい思いをしました。有志の皆様による票の読み直しの訴えも、町選挙管理委員会の票読みを鵜呑みにし、選挙管理委員会の票読み間違いは無いという、先に結論ありきの裁定でした。しかし2013年の「高松市選管による票の不正操作事件」に見られたように選管「性善説」はもろくも崩れ去り、なぜ数え直しを公開でしなかったのか、一方への利益誘導があったのではないかと疑いが残ります。

済んだことというのもなんですが、今は目前の選挙に集中しましょう。先の衆議院選挙では、政党別得票率と当選議員数が大きくかけ離れており、民意を正確に反映したものでないと小選挙区制の問題がメディア、学識者などから指摘されています。地方選挙ではそういうことはなく、町民の意志である投票が直接町長、町議員の選出に反映されますので、一人一人の投票の重みは国政選挙の比ではありません。選んだ町長、町議の行政や議決はわれわれの生活に直接大きな影響を与えます。この4年間ひいては2期8年間に果たして現町長は、われわれの今の暮らしを良くし、また平群の未来創りに貢献行政を行ったのでしょうか。自己や一部の人の利益を優先し、多くの町民を犠牲にしてはいないのでしょうか。党利党略がまかり通る国政と違い、町政はその地域の住民の今現在の暮らしの良し悪しを即左右します。今まで8年間の行政を体感的にも数値的科学的にもよく分析、評価してみてください。そうすれば自ら選ぶべき人が決まるのではないのでしょうか。町議についても同じことが言えます。

ここで生まれ育った人達も我々のようなニューカマー（他から移り住んだ人達）も、一緒になって平群を「終の住み処」にするために最善最良の選択をしようではありませんか。今と未来のバランスを取り、また一方では中央とのパイプを持っておられる中筋氏を町長候補に推したいと私は考えています。

4月には町議選もあります。勿論山田ひとき議員も町長選挙において、中筋氏支援で勢いを付けて頂き、再度の当選を果たしていただきたいと存じます。そして今までの議員活動をして下さい。仮に町長選で中筋氏が勝っても、与党が少数では議会運営も難しくなりますので、山田議員はじめ一人でも多くの与党議員が当選できるように後方支援もしなければなりません。大変ですが今間違った選択をすると今の暮らしも未来も真っ暗です。4年に一度しかない、われわれ町民の意志を反映させる機会です。必ず投票に行き、町長選、町議選で悔いの無いように真剣で誠実な人を選びましょう。

【平民】一平群の一町民（緑が丘 K）

町道川原路線の 道路拡幅について

町長答弁

本庁舎を西小跡地へ持つて行くことは、町民の利便性を考えた時、適切でないと考え

山田ひときの指摘

住民票等の交付については平群駅前出張所を設け、本庁舎へはシャトルバスを運行することで住民サービスの低下にならないと考える。又、シャトルバスとコミバスの併用により、朝夕の通園・通学バスをより充実させれば、町全体の活性化にもつながっていくと思うのですが…。

町長答弁

竜田川駅南踏切から椿井橋交差点間の未拡幅部分については平成18年度以降、進捗も見られず、平成20年、21年には、地元自治会を中心に、9つの自治会長の連名による川原路線拡幅の要望書が提出されてきました。

川原路線は、パイパスの潤いとともに、交通量増加の渋滞回避の迂回車両が増加し、通学通勤の歩行者の安全確保にも支障をきたす傾向が強くなってきています。

平成23年12月議会での私の質問に『当該場所は地籍の混乱地であり、境界が未確定な状況である為、現地調査を行



現在の川原路線（西宮2丁目）

答弁

地籍更生など拡幅にむけた用地の整理を平成25年3月に完了。本年度予備設計業務を発注、道路幅員などの計画を12月中に作成し、27年1月には地元説明会を開催したい。一定の理解が得られた後に、地権者との交渉も含め取り組んでいきたい。

山田ひときの要望

い、地図訂正や地籍更生を実施し、25年度以降に補助メニューの検討も含め早期の事業着手に積極的に取り組んでまいりたい』との答弁でした。

地権者の御意向もあり、完成目標時期については答えられない部分もあると思うが、一日も早い完成に向け取り組んで頂きたい。